「きぬむすめ」の出穂特性・収量とWeb版出穂期予測

兵庫県認定品種「きぬむすめ」の出穂特性を把握し、収量の安定する栽培時期を検討した結果、移植栽培では6月初旬までの移植、直播栽培では5月中旬播種であることが分かった。また、9月中に収穫するためには6月初めまでに移植する必要がある。なお、出穂期予測システムを利用すると、移植時期等に応じた出穂期・成熟期が推定でき、地域に適した栽培計画づくりが可能である。

内　容

「きぬむすめ」を４月末に稚苗移植すると、出穂期は８月５日頃で「ヒノヒカリ」より３日早く、その後、移植時期が１週間遅くなるに従って出穂期は３日余りずつ遅くなる。７月初めに移植すると出穂期は９月３日であった。直播栽培の場合、５月初旬までの播種では出芽が不安定であり、中旬以降に播種する。６月中旬以降の直播も、出穂期が９月になるために避ける（図１）。

収量が安定する移植時期は６月初旬までであり、それ以降は減少した。直播栽培では５月21日播種が最も多収であった（図２）。

「きぬむすめ」を初めて栽培する地域では「近畿中国四国地域水稲生育予測サイト」を利用して出穂期・成熟期を推定するのが有効である。http://tekisaku.jp/ricediag/にアクセスし、Mapserver版か GoogleMaps 版を選択し、品種名から「きぬむすめ」を選択する。必要なデータを入力して「実行」をクリックすると予測出穂期と成熟期が表示される。年次を2009年にすると昨年の結果が表示されるので、昨年の「ヒノヒカリ」との比較で、出穂期、成熟期の予測が可能になる。また、2010年にすると、今年の出穂期、成熟期がアクセス時点までは今年の、それ以降は平年の気象条件で予測される。携帯電話からも http://tekisaku.jp/rice-i/ にアクセスすることで予測が可能である。

携帯用ＱＲコード

普及上の注意事項

出穂期、成熟期、収量などは年次、地域、栽培方法などにより誤差をともなうので十分注意する。

須藤　健一（農産園芸部）
（問い合わせ先　電話：0790－47－2410）

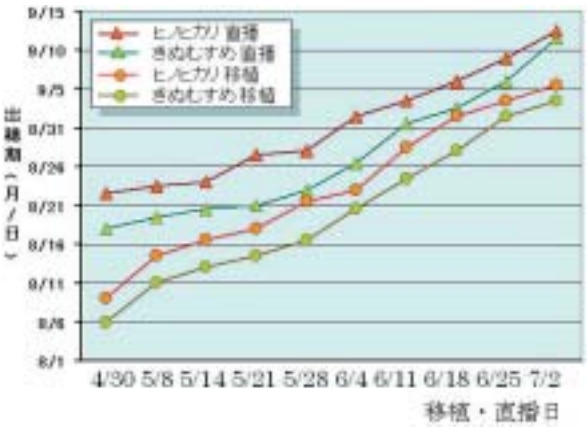

図１　「きぬむすめ」、「ヒノヒカリ」の移植、直播時期別の出穂期（当センター（加西市））

注）移植苗は20日育苗の稚苗。直播種子にはカルパー（酸素供給剤）を乾籾の２倍量を粉衣した。

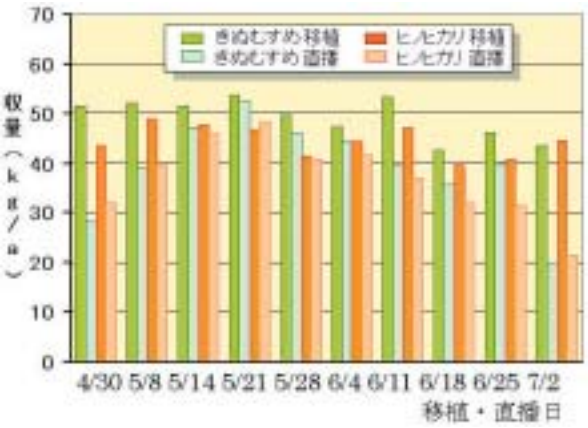

図２　「きぬむすめ」、「ヒノヒカリ」の移植、直播時期別の収量（当センター（加西市））

注）苗質、直播種子は図１に同じ。牛ふん堆肥を隔年0.2t/a施用したほ場で、施肥は基肥窒素0.4kg/ａのみで、追肥は施用しなかった。